

## 第4章 求められる情報教育と情報モラル教育

### 第1節 学校で指導すべきものと家庭ですべきしつけ

#### 4.1.1 しつけの大前提は家庭

アンケートの結果にもあるように、情報教育にかかわるしつけについて、家庭で行うべきであるという意見、学校で行うべきであるという意見、そして、両者が行うべきであるという意見が出た。学校では、情報教育の目的の一つである情報活用の実践力を育成することが大きな柱とおさえ、細かな「しつけ」を行うのは家庭であるというのが大前提であると考えられる。

#### 4.1.2 情報機器に対する親の大きな温度差

その一方、現在家庭においては、携帯電話を親が持っているところ、持っていないところ、子どもに持たせている、持たせていない。また、コンピュータが家にある、ない、さらにはインターネットに接続されている、いない。とかなりのばらつきがある状況である。学校で、どの家にも今あるであろうテレビや家庭の電話(家電)という情報機器と同じ考えで、「共通の約束事を決めましょう」という段階は時期尚早の感がある。

もっともテレビや家電についても、学校でしつけをするとしたら、テレビでは「テレビ番組は選んでみましょう。」「目を守るためにも長時間見続けるのは控えましょう。」「家電では、「話し方のマナーに気をつけましょう。」「だらだらと長電話をするのは止めましょう。」位のものなら出すこともできよう。学校がもっと具体的に、「食事時はテレビを消しましょう。」とか、電話の出かたのマニュアルなど作ったものなら、「そこまで学校で口を出さなくてもいいじゃないですか。」とお叱りが来そうである。

まして、携帯電話やインターネットにおいては、所有状況もばらばらであるが、考え方も千差万別である。小学生の保護者におけるパソコンへの考えについて述べるならば、「絶対必要」「絶対不要」がそれぞれ十数パーセント、やや必要が30パーセント、あまり必要でないが約20パーセントとなっており、「必要」の方にやや軍配があがるが、双方の意見は全く対立している。また、携帯電話では、非常に必要が1.6パーセント、やや必要が17パーセント、あまり必要でないが36パーセント、全く必要でないが2パーセントとなっている。携帯電話については、必要なしの方に軍配があがるが、子どもに積極的に持たせるには持たせるなりの理由があるというわけである。

このように考えると、パソコンについても携帯電話についても、学校での指導方法を一步誤ると大きな批判を浴びてしまう可能性が高いであろう。

#### 4.1.3 学校での指導のあり方

以上述べてきたことでは、学校では新しい情報機器について、指導していくのは非常に難しいということになる。しかし、それでいいのだろうか。本来しつけは「躾」と書くよ

うに、身についた礼儀作法のことである。時代と共に変化はあろうが、その基本は普遍のものであろう。「自分でできることは、自分できちんとする。」「日々育ててもらっている家の人に感謝の気持ちで接する。」「誰に対しても思いやりの気持ちを持って接する。」小学生にとっても理解できるものなどがいくつか挙げられよう。これらは情報機器でもそうでなくても、共通して指導していく事項であろう。

さて、情報モラルは非常に広範囲にわたる。詳細は4章2節で述べるが、当然のことながら、全ての事項を細かく学校で指導することはできない。また、家庭での指導も大切であろうが、全部とはいかないであろう。

では、実際に学校ではどんな指導が必要なのであろうか。

#### 4.1.3.1 ネットと付き合う心構え

まず、根本に、日常生活で人と接する時のわきまえや言葉遣いは、ネット上でも全く同じに考えてほしいということである。さらに、ネット上では、気持ちが大きくなり、大胆な発言をしてしまうことが、往々にしてあるため、特に、注意してほしいということを指導していきたい。また、他の学校の機器と同様に、丁寧に扱うということも当然指導する。中身としては、みんなのものだから、勝手に設定を変えないということも含まれるであろう。

#### 4.1.3.2 インターネットの利用の決まりをつくる。

子どもたちには、身近な学習手段として、インターネットを積極的に活用する姿勢を育てたいし、学校でも、気軽に使えるようなコンピュータ室の管理、教室での利用などの環境を整えてほしいと考える。その上で、学校で見るのにふさわしくないようなページは見ない、見させないような指導も大切である。思春期を迎えた子どもたちには、ファッションや、芸能、性に関するものなど興味いっぱいの時期である。さらに、ドラッグや暴力などのページにも興味は馳せてくる。そのような中、少なくとも学校で、見るものがふさわしくないものには手を出さないような話し合いを持つことは大切であろう。これも、教師の側の押し付けによるものではなく、子どもたちの意見も聞きながら、子どもたちが自分で決めた決まりと思えるようにすることが大切である。だから、放課後に、子どもたちの作った決まりに基づいて、楽しみとしてキャラクターなどのHPを見ることも許される場合もあっていいと思う。何もがんじがらめにしなくても、自分たちが守る線をしっかり決めて、それを守らせることが大切である。

また一方で、教師は子どもたちがコンピュータに向かっている時は、きちんとつくということは、守らなければならないことと思う。「コンピュータ室に行って調べておいで。」ではいけないと思う。子どもたちに心のスキを作ってしまうことになるからである。

子どもは最初のうちは、情報の検索が全くもって下手である。調べたいことをそのまま検索エンジンに入れてしまう。「自動車の生産」などと入れても、子どもたちのほしいデータなど探せるわけがない。子どもたちのそばにつきながら、「こんなキーワードで探してごらん。」とか「こういうカテゴリーからいった方が見つかりやすいよ。」「先生は、この企

業の見たことあるけど、一緒に見てみない。」などと声をかけて教えてあげることが大切なのであろう。

#### 4.1.3.3 メールの使い方。

電子メールは、小学生ではあまり使っていないだろうが、中学生ぐらいになるとけっこう身近に使っている生徒もいるであろう。同じクラスの中でも、すっかり慣れっ子の子も全く初めての子もいる。それでいいと思う。慣れた子は、初めての子に指導すればいい。お互いの勉強になる。授業では、特に言葉遣い、内容を端的に書くこと。最後に署名をつけることなどを教えたい。友達同士、または、先生へ子どもたちは喜んでメールを出すにちがいない。楽しく学ぶ中にも、メールの礼儀をきっちり指導していきたい。

#### 4.1.3.4 個人情報の保護

インターネットを使うと、品物の注文や会員登録、アンケートの送付など、今まで考えられなかったようなことができる。その一方で、インターネットを通じて集められた個人情報、第三者に流用され、悪用されることもある。自分の個人情報を書く時は、慎重に、また、インターネット上に友だちの名前や住所などを安易に書かないなどの指導は必要であらう。

#### 4.1.3.5 著作権

著作権は音楽や絵などの芸術だけに発生するものではない。子どもたちの書いた作文や絵、ノートにも著作権が発生する。人の作ったものを断らないで使うと失礼に当たるということを身近な例で話をするといいであろう。このことから、インターネット上にある資料や写真、または音楽、プログラムなどには全て著作権があり、勝手に自分のものとしてしまうのはいけないことを指導する。資料をまとめる時は、出典はどこかということを書き明記し、また、場合によっては、掲載している方に連絡をとって了解をもらうなど、基本的なことを指導したい。

#### 4.1.3.6 出会い系

特に中学校になろうが、インターネット、とりわけその気軽さから携帯電話を使って、興味本位から、出会い系のサイトにアクセスしてしまうことが多い。実際の出会い系などに模擬アクセスなどをする必要などはさらさらないが、最初は遊びのつもりでも、お小遣いをもらったり、楽しい思いをしたりして、大人の罠にはまらないとも限らない。そのようなサイトに近づかない。アクセスしない。誘わないなどを徹底していきたい。

#### 4.1.3.7 その他

その他、チャットや掲示板、ホームページ作りなど、比較的高度なことも、子どもの実態や学習環境などに応じて、扱っていきたい。

#### 4.1.4 家庭でのしつけ

情報モラルについては、何と言っても、家庭でもきちんとしているということが基本である。

#### 4.1.4.1 利用料金

インターネットについては、最近の場合、ほとんどつなぎ放題の定額制であろうから、気にする必要はないだろうが、携帯電話については、一部定額制があるものの、基本的に従量制である。調査からも、その支払いのほとんどは、保護者となっている。したがって、利用の金額を子どもと話し合っただけで決め、それを守らせることは大切である。

#### 4.1.4.2 利用目的、時間、場所など

パソコンを買う時は、「勉強のため」、「宿題をやるため」という名目であろうが、実際はその通りにならないだろうし、それだけがパソコンの使い道だとは思わない。しかしながら、野放図に子どもにパソコンを与えっぱなしにすると、ゲームマシンになったり、ネットにはまりこんだりすることの可能性も出てくる。

したがって、パソコンを買った時に、パソコンについて家族での話し合いをきちんとしてほしい。まず、設置場所は、家族の共有スペースとし、保護者の目が届くようにする。利用時間も、保護者のいる時にするとか、何時から何時までとするとか、決める。また、いわゆる有害サイトは見ないなどの約束をしておくことが大切であろう。

#### 4.1.4.3 ふだんからの声かけ

ふだんの生活から、ネットに関わる危険なこと、便利だったことなどを家庭の話題にしていきたい。調査によると、親は子どもとネットにかかわる話をしていると思っているが、子どもは親にあまり話をしていないというデータがある。子どもがネットでいやなこと、困ったことに遭遇した場合、必ずサインを出すものである。子どもが、悲鳴を上げる前に、気づいてフォローしていかなければならないものである。